（３）教育力に関する分析

①　ヒアリング調査実施の概要

地域力ヒアリングと同様、既往資料やデータ等から読み取ることができる地域の現状および課題等を踏まえ、教育関連、人材育成関連に加え、子ども相手の山村・林業体験プログラム、山村をフィールドとする体験観光などを企画･実施する地元住民、NPO・市民グループ、行政へのヒアリング調査を実施した。

教育力のヒアリングに際しては、市南部の都市住民との対象地である中山間地との交流人口の増加が重要なポイントとなるため、観光関連、交流人口増加につながる動きもヒアリングテーマのひとつとして引き出すことに努めた。

②　ヒアリング対象

＜地域からの視点＞

地区		ヒアリング先名称
水窪		NPO 山に生きる会
		ここほれワンワン塾
佐久間		NPO 法人がんばらまいか佐久間
		山香ふるさと村女性部
龍山		ドラゴンママの店「よらんかね」加工場
天竜	二俣	川島米穀店
	熊	NPO 法人夢未来くんま
	横川	有限会社いっぷく処横川
春野		NPO 法人春野山の楽校
		春野木材加工協業組合　進藤博行氏
引佐		NPO 法人　大好き渋川　てんてんゴー渋川
行政等		教育委員会
		企画部資産経営課
		企画部地域振興課

＜都市からの視点＞

地区	ヒアリング先名称
浜松市(中区)	魅惑的倶楽部（エキゾチッククラブ）
	浜松NPOネットワークセンター
	NPOプレンティアの森
	NPO 法人　天竜川･そま人の会

ヒアリングの結果を、地域力を構成する以下の 2 つの項目ごとに一覧表に整理する。

○人材育成、企業・NPO の活動
○山村体験、観光・都市山村交流

【ヒアリング結果　整理表　＜教育力＞】

調査対象		教育力	
		人材育成、企業・NPO の活動	山村体験、観光・都市山村交流
水窪	NPO 山に生きる会	・山を知るものが少なくなっている。消防の若いものも知らない。	地元の子供たちに林業体験のプログラムを実施。が、急斜面なのでプロでも危険な場所。 ・NPO プレンティアの森が企業の社員の活動の場として、どんぐりなどを植樹。登山、釣りに東京あたりから来る人も多い。 ・高根城、山住神社、資料館などを組み合わせた日帰りの遠鉄バスや浜松観光のバスツアーが増えてきている。手弁当持参が多い。お土産は買っていく。もっと売るもの提供できる量の確保が必要。 ・案内してほしいという需要はあるが、窓口がない。駐車場の基盤整備も必要。
	ここほれワンワン塾		・650～800 人ほどの参加があるヤマメのつかみどりイベントは、岐阜や焼津からもくるほど。リピーターが多い。 ・14年経って、わんわん塾の名前は、新聞などで取り上げてもらっているのでかなり浸透してきている。まずは来てもらって、どんなところか知ってほしい。 ・東海トラベル主催のツアーに協力して、つかみどりを実施。魚代と多少の経費をもらう。平日ならこのタイプのものが増えても大丈夫。何か販売をするにしても、実施には、行政や観光協会と協力が必要だろう。
佐久間	NPO 法人がんばらまいか佐久間		・交流居住モデル事業として、蕎麦の収穫体験を 2009 年 112 月に実施。オーナー制も検討中。 ・クラインガルテンを企画中。制約が多く、先に進んでいない。 ・都市部住民の山間地への関心は高くない。
	山香ふるさと村女性部		・地元小学校の社会見学や体験授業に協力していた。
龍山	ドラゴンママの店「よらんかね」か工場		・安らぎの湯が診療所とトロン温泉をかねていてにぎわっている。加工所に買いにくる人もいる。 ・郷土文化保存伝承施設はほとんど閉まったまま。
熊	NPO 法人 夢未来くんま	・ばらばらになったくんまの人の心をつなぎたい。 ・これから 10 年はがんばれるが、後に続く人がキーポイント。 ・農家民宿をやりたいといっても制度が整っていないといわれ、前に進めていない。	・5 月、8 月、11 月が多忙。天気のよい日には蕎麦が 500 杯売れる、。 ・文科省の事業で水辺体験の環境学習や、国交省の事業で山川守り隊を 5 年間実施した。今後も続けていきたい。最初は地区の子供たちが参加していたが、今は地区外の親子が中心。 ・アルプホルンのセミナーを毎年 2 月に開催し 5 年目。平成 17 年に間伐材でつくったホルン 16 台を所有。県外からも参加者がある。
春野	春野木材加工協業組合	・ ログハウスは 8 割が輸入。北欧からの木はマイナス 30 度で育った木だから雨に弱い。高温多湿の日本で育った杉の含水率は世界でもっとも高い。吸湿・調湿作用が大きく、夏は涼しく、冬は暖かい。十分競争力はある。 ・ 60～80 年の木を使うので、使える木は少ない。60 年ものでも間伐材になるので、山主には届けを出してもらい、補助金申請をしている。これが地元の木を使っているという証明になる。 ・ ログでも色目、細工のよしあしは大きく、天竜の杉だからできること。	
	NPO 法人春野山の楽校		・ 運動、音楽などの体験ができる。コンピューター付の望遠鏡設備がある。市内の観望会のグループにメンテナンスのために無料で月 1 回使用してもらっている。毎回 20～30 人が参加。 ・ 箸や笛づくり、木を伐る間伐体験などのプログラムを実施。子供たちは間伐した木の輪切りを喜んで持って帰る。木質バイオマスの活用を県内で活動している NPO（藤枝から通っていた酒井氏（現事務局長））と連携して実施している。 ・ 町側の人が山のことを考えてくれるきっかけづくりがしたい。
	有限会社いっぷく処横川		・ 天竜山の市にも出店しているが、ここのほうが売れる。山の市はアンテナショップとしての位置づけ。旬の市などに誘いはあるけれど、ここに買いに来てもらうことを基本にしている。 ・ 平成 17 年からはじめた「マイしいたけ友の会」の事業が好調。原木伐採からやるところはほかにない。原木から収穫まで 4 年間付き合うことができる。会員は 32 組 70 名。 ・ 体験プログラムは各地域で出揃ってきたようだが、最終的に窓口が決まっていないのが問題。観光商品とするなら、旅行業の認可を得なければならない部分もあり、営業ベースにどうもっていくのか。天竜商工会、観光協会が地理的には受け皿機関になれるのでは？
引佐	NPO 法人　大好き渋川　てんてんゴー渋川		・ モトクロスのトライアルコースがあるので、ライダーたちの利用が多い。 ・ 5 月中旬から下旬はつつじ祭を開催。渋川大好き大使の任命状を希望者に出している。現在 36 人が登録。手伝いなどを希望。
二俣	川島米穀店	・ この地域は国よりも早い速度で少子高齢化が進んでいる。地理的な要因が大きい。人口はもう増えることはないだろう。人口が増えないことを前提として地域や人づくりが必要だと思う。	
行政他	天竜区森林整備課		・ 道の駅3ヶ所が好調。水窪の水窪祭（9 月）、峠の綱引き、佐久間の竜神祭（10 月）、新蕎麦祭、龍山の桜マラソンなどが人気。観光地としては白倉峡。 ・ 春野はお茶と鮎が有名。気田川は日本一の清流をめざしている。
	教育委員会	・ 下阿多古中学校には不登校の子供を対象とした「すぎのこクラブ」が月1回体験プログラムを実施。全市で不登校は 800 人ぐらい。天竜区の 80 人が通学している。 ・ ほっとエリア阿多古では、いいかだづくりや川遊びのプログラムを実施。 ・ 外国人の子供が 1700 人ぐらいいたが、現在は減少。	

調査対象		教育力	
		人材育成、企業・NPO の活動	山村体験、観光・都市山村交流
		・ 浜松教師塾を実施中。ベテランの先生が若手の先生を指導するシステム。 ・ 旧浜松市内は私立の幼稚園がほとんど。周辺は効率。待機児童が多い。教室が使えるところで実施している。天竜市までは保育園があるが、それより北にはない。要望はあるが、人数が少ないので踏み切れない。	
	企画部地域自治振興課		・ 温泉がないので観光にとっては大きなマイナス要因。カヌーや釣り人気があるが、お金はあまり落ちない。キャンプは春野、天竜で、水窪まではあまり行かない。 ・ 観光交流では、特に集客施設がない。 ・ アウトドアで遊ぶなら、春野は地理的に優位性がある。 ・ 道の駅花桃の里が交流人口が増えている。水窪の国盗館まで何もない。合併して訪れる人は増えているのに。 ・ 森林セラピーを観光と結びつけて道の駅を拠点に実施している。 ・ 京丸山付近は一時観光に力を入れたが、人が来て、山が荒らされたので現在は入山できない。
	天竜区振興課	・ 役所内での山側への知識や認識が浅いことから、ソフト事業の予算化が難しい面がある。 ・ 町側にどうして山側にばかりお金を使うのかという意識が強い。中山間地域からの発信が重要だとホームページを立ち上げた。	
NPOセンター		・ Iターンとして森に入ってくる人たちがどのようなスキルを身につけるべきかが課題。 ・ いくら事業費がついても、継承しながら森を守ることができていない。 ・ 企業のサポートで一般の人の広い間口を継続的に設ける必要がある。段階的に素人が山に関わっていける機会が必要。イベントは開催しても、足踏みしてそのままになってしまう。 ・ 行政の中からも人材を生み出す必要がある。NPO もまだ育っていない。 ・ 天竜林業高校にはノウハウが蓄積されている。地域の中に林業を支える仕組みが必要。	・ 交流人口が関わるためには、林業に関わるインターフェースをつくるなど戦略が必要。専門用語を翻訳する人も。 ・ 町側の市民は合併前、山側い対して無関心だった。林業と縁がなかった。 ・ 行政と林業の関係もわかりにくい。なぜ、そんなに税金を投入しなくてはならないのかという疑問もある。 ・ 行政の立場で林業に必要なことがこれだけわかってきた、という部分と、古老に聞いてみて、わかった山のことを付き合わせる必要もあるだろう。 ・ 磐田のららぽーとに地域の特産品コーナーがあり、とても面白い。市内では物産展があるが、その場で食べるものが中心で、お土産品は少ない。
NPOプレンティアの森		・ 企業は社員のアイデアを高める場として森を使えばよいと働きかけた。 ・ 2000 年から一般の人への訴求のために意見広告をカラーで出している。スタート時には協賛は 4 社のみだったが、現在は 60 社にのぼる。 ・ ゴルフの会員権を持っているなら、山を持ってくれと提案したい。看板をつければ放置林にできないはず。 ・ 知性・感性・技術という人の人生の武器になるものを手に入れる場という位置づけ。 ・ 有償スタッフはなし。代表の水野氏の会社の社員が業務を遂行。エコを基盤としたマーケティング会社なので、企業には環境経営白書の作成を提案。自分たちでやっているビジネスモデルが成功しないと、林業をサービス化しろといっても説得力がない。 ・ 森林の二酸化炭素吸収率のデータをもとに、広葉樹への転換を促している。 ・ 間伐体験は本当に子供たちが森林を理解するうえで役立っているのか。心を痛めているのではないのか。森林の循環こそ教えていくべきことでは。	
NPO 法人　天竜川・そま人の会		・ 昭和30年代は林務の職員が山主自身だったが、今は山のことを知らない。水源涵養といっても市や県の職員でさえ知らない。 ・ 教育関係と山側とが協力関係にない。山に行くのが怖い先生や、責任問題を気にする。子供より、まずは大人が山に親しんでほしい。	・

③　「教育力」ヒアリング調査結果

＜現状＞

○産業の衰退、人口減少、少子高齢化のトリプルパンチを受け、地域のコミュニティの活力は減退傾向であり、それにつれて地域の教育力も弱体化している。
○中山間地の課題、特に荒廃する森林を改善する目的で、地域の NPO と旧浜松市など都市部の NPO とが連携する形で、都市の子ども達などを対象に都市農山村交流を行う動きが起きつつある。

地域においては、子どもの数が減少するとともに、生活スタイルが変わり、かつてのように、家庭内やコミュニティによる共同作業等で伝承する機会が少なくなってきている。それに伴い、山で暮らすために必要な林業、農業、生活文化が伝承されなくなったり、利便性のため省略されたりして、地域が培ってきた、家庭やコミュニティにおける最小単位の基本的な教育力は相対的に衰えてきている。（佐久間住民、水窪 NPO）

それに加え、林業をはじめとする山の仕事もほとんど行われなくなり、小中学校の統廃合もあり、地域全体の教育力、人材育成の力は減少しているといわざるを得ない。

一方で、都市化が進んだ浜北区や旧浜松市などの都市部においては、都市の子供たちや親子を対象とした森林体験、イベントを行う NPO が複数あり、地域団体とも連携しているケースが多い。参加する都市部の子ども達や親にはこういった活動は好評で、今後も需要が伸びると思われる。

ただし、そういった活動を行う NPO 同士、あるいは、地域間の連携、行政の施策との連携は弱く、そのため、理念や内容もまちまちなまま、それぞれの地域や都市部の団体がばらばらに活動を行っているのが実情である。（旧浜松 NPO、各地域 NPO）

交流人口の現状を見ると、北遠地域は目玉となる集客施設や温泉がなく、都市からの誘客力が一般的に弱い傾向が見られる。（浜松市）

春野、引佐、阿多古川流域はアウトドアフィールドとして浜松からのリピーターがおり、道の駅がドライブやツーリングの目的地となっている。また、水窪の歴史と食と体験を組合わせたバスツアーが人気である（浜松市内・地域 NPO）。

＜課題＞

○地域資源の再評価、体験プログラムの戦略構築 ○ヤマに関わるチャンネル整備と更なるマチへの情報発信

地域の教育力を高めるため、小中学校の総合学習や課外授業の機会を増やし、地域に育つ子ども達に山の暮らしを知り、学んでもらうことが重要である。そのために、現在個別に行われている都市部 NPO との連携などの機会を上手に活用し、必要に応じて行政の支援なども導入しつつ、都市部と地域が交流する形での総合的なプログラム展開が必要である。

まずは都市住民に関心を持ってもらうことは重要である。そのためには、合併後も北部中山間地にあまり関心を示す機会がない都市部住民への情報発信が最も重要な戦略となると考えられる。また、次のステップとして、関心を持った人が地域の暮らしや山の仕事に関わっていく仕組みが重要である。（旧浜松 NPO）この段階では、林業の専門技能を持った指導者や、環境問題について適切な知識を身につけたインタープリターなどの人材が必要となる。

また、プログラムの内容として、スギ植林地などの人工林の施業（除間伐、枝打ち、下草刈など）と、より生活に密着した雑木山の手入れ（エネルギー利用、山菜･キノコなどの特用林産物、堆肥化等による農業との持続可能性、生物多様性等）など、森林の環境と将来の整備方針を明確にした一定のプログラム活動の基準づくり（針広混交林への誘導、スギ人工林の長伐期施業、薪炭林施行と木質バイオマス活用の試験林など）が必要と思われる。

交流人口を北部に誘致する戦略として、未利用の地域資源を活用する必要がある。特に水窪等の食資源（ジャガイモ、雑穀食、山菜等）、城跡や秋葉街道等の歴史資源などの再評価などを実施し、これらを活用したプログラム作りと情報発信を行うことにより、ヤマとマチの交流促進を実現することが可能であると考えられる。

＜具体的方策＞

一次産業の林業に加え、「山を守る」環境・観光との連携
教育力【環境・観光】　～新しい森林利用のカタチの模索～

◆地域資源の発掘、再評価、有効活用

・ヤマとマチの交流促進に活用可能な地域資源（自然資源、歴史･文化資源、食資源等）の掘り起こしと再評価が必要。
・それらの資源を活用した、魅力的な体験プログラムの開発、地域の住民組織、NPO との連携体制作り。
・地域の農作物、特産品の加工等による高付加価値の商品開発等による地域に経済効果をもたらすための活動の活性化が必要。

◆マチ住民への情報発信、ヤマへの集客戦略構築

・環境教育、食育、自然科学教育等のフィールドとしての山村部、森林空間のの活用戦略の構築を行う（一次産業→三次産業の転換）。
・そのための上記地域資源等を活用したプログラム、商品等、オリジナルの戦略的な情報発信を実施する。
・関心を持った人がヤマに関わり続けるためのチャンネルを整備する。

◆地区の将来ビジョンを実現するための多様な人材育成の機会創出

・天竜の森林、中山間地の農山村の将来ビジョンを作成し、地区ごとのあるべき森林整備方針の策定が必要不可欠である。将来ビジョンが明確になれば、組むべき NPO や必要な行政メニューの選択などの基準が明確になり、有効な年農山村交流がより深いレベルで実施されることとなる。
・また、人材育成に関しても、地区ごとに林業技能者等育成に加え、環境・ネイチャーガイド・バイオマス活用など森林の多機能性に関する専門知識と技能を持った人材育成が必要となるなど、地区に本当に必要な人材を意識して育成する機会創出を行うことが可能となる。

◆ヤマの拠点／マチ拠点の整備

・以上のような施策を効率的に推進するため、都市住民が一括で情報を得ることができ、訪問した際に地域の様々な名所やイベント情報を一元的に得ることができるワンストップ窓口の整備が有効である。
・拠点においては、地域の歴史・文化情報、食の資源、体験プログラム、ボランティア情報等、ヤマを訪れる人への天竜区全体のワンストップ情報・予約サービスを行う拠点の整備（特産品販売、地元食レストラン等併設）などの機能整備が想定される。

【参考】NPO 山の楽校（春野・山の村）

・静岡県天竜区の春野町にある「春野山の村」は本格的な野外活動施設。
・1981 年に高校生宿泊施設“山の村”として開所し、後に学校・青少年育成団体・勤労青年団体なども利用できる静岡県立春野山の村となった。
・43.1ha の広大な敷地に、管理棟・10 棟の宿泊棟・炊飯施設・創作活動棟・天体観察ドームを備えている。
・2007 年度に圏が施設閉鎖を決定。施設運営の委託を受けていた杉集落の有志が、浜松市が県から施設を借り受け、補助事業として NPO 法人はるの山の楽校が運営、再び利用ができるようになった。
・年間利用者は約 1000 名。旧浜松市内の高校大学のスポーツ合宿や、子ども関連団体の屋外活動の拠点として利用されている。特に宣伝活動は行っていないが、口コミとインターネットで申し込みがある。
・宿泊棟、炊飯施設、創作活動棟、天体観察ドーム、キャンプファイヤー、緑陰広場、多目的ホール、管理棟のほか野外活動に必要な道具や工具などがそろっている。

山の村ホームページより

春野町杉集落の風景と、地元 NPO 代表

【参考】NPO プレンティアの森の活動

・NPO プレンティアの森は、1999 年 10 月に天竜川水系を対象に浜松で発足した『水系の市民運動としての里山作り』の活動。

・「プレンティア=Plenteer」は、プレジャー=Pleasure(楽しみ)とボランティア=Volunteer(奉仕)を併せたこの NPO 創始者の造語。肩肘を張らないで"知的なレジャーとして自然を楽しむ"知性と感性と技術を育て、その自然の中で費やされる時間を生かして豊かな生態系を持った広葉樹林を復元させようというもので、さまざまな暮しの文化を紡ぎだしてきた『里山』を、現代のレジャーや環境教育の手段として蘇らせようという理念に基づいている。

・自然は大きな学校であり、カルチャーセンターであり、技術の養成所であり、創造力を拡げられるリゾートであり、豊かな情操性を育てる趣味でもあるという考えから、プレンティアの森はそうした機能を果たしながら水系の広葉樹林を育てることを目的としている。

・協賛する企業を組織化し、企業は社員のアイデアを高める場として森を使えばよいとプレンティアの森活動への参加を働きかけた。

・2000 年から一般の人への訴求のために意見広告をカラーで出している。スタート時には協賛は 4 社のみだったが、現在は 60 社にのぼる。

・企業には、ゴルフの会員権を持っているなら、里山を保有してはどうかと提案したい。企業の森に看板をつけて、CSR の広報として事業化したいと考えている。看板をつければ企業も放置林にできないはず。

・一方で、里山を保全する資格を持った人材育成のセミナーも開催している。現在、森づくりの検定技能でランク 3 の資格を持ったスタッフが 2 人いる。他にもチェーンソー講習受講レベルが 8 人。

・どんぐりの里親活動を実施中。モヤシ林となって人の手が入らない植林地を里山として再生して生きたいと考えている。

「どんぐりの里親手帳」

親子イベントなどで利用

協賛企業による新聞広告

（４）地域資源の掘り起こし

①　食資源

＜概況＞

急峻な山間の地形を工夫しながら栽培される農産物には、地域独自の特色を持ったものが多い。特に山間地だからこそ、出来るものがほかと異なる味わいを持つじゃがいもやらっきょう、こんにゃくに注目したい。日常的に食べるもので、質のよいものができることは、収益の面で大きな可能性を秘めている。

原木しいたけ、無農薬の茶づくりなど、安心安全な食材の価値が高まっている中、人気が高まっている。一方でかつては当たり前にあった山菜が、山の手入れがされないためにほとんど採れなくなっている。

サルや鹿の食害が年々ひどくなっている。雑穀でさえも、被害が出ている。増えている鹿を食肉にするシステムが整っていないため、需要があるのに安定供給できていない。

食べ処は、春野、天竜区二俣をのぞいて、ほとんど道の駅のレストランしかない。地元のものが手軽に食べられる、買える店が、点在していることが望ましい。

＜地区ごとの食資源＞

二俣

○商品：無洗米「玄気」、日本酒「玄気　くろまい酒」

天竜区は鹿島が船着場で、二俣は遊郭があったぐらいの中心地だった。川島米穀店川島正光代表によると、「天竜地区は食にお金を使うところ」とのこと。その川島氏が独自に開発したのが、父親がガンになったことを契機に興味を持った玄米食から発想を得た無洗米の玄米「玄気」。

白米と同じように玄米が炊ける。やはり同氏が日本酒の醸造元である関谷酒造（愛知県設楽町）と共同開発しのが黒米を原料にした日本酒「玄気くろまい酒」。前者はネットで、後者は東京のレストランで人気。

佐久間

○食材：蕎麦

新蕎麦祭が、1999 年から毎年 1 月下旬に開催されている。休耕地を借り上げてそばを栽培する「野田やまびこ会」や、NPO「がんばらまいか佐久間」など地元の団体、そして県内外から団体が参加し、各地域自慢のそ ばを提供。蕎麦づくしの人気イベント。

がんばらまいか佐久間では、蕎麦のオーナー制などを試行中。

○食べ処：佐久間民俗文化資料館そば処北條峠（佐久間町佐久間 1832-1）

地区住民が栽培し、手打ちした 100%地蕎麦粉の蕎麦を食べさせる。

○食べ処：NPO の店　いどばた（佐久間町中部９３）

がんばらまいか佐久間のメンバーの女性たちによる地域住民のための惣菜と軽食の店。

営業時間は午前 11 時から午後 2 時。

天竜区熊

○食材：しいたけ、茶、手作りこんにゃく。

少量ずつつくるのでバラエティに富んだ自家栽培の野菜、

天竜から工場跡に栽培場を移築した人がいて、舞茸が特産品になっている。

○食べ処：道の駅「くんま水車の里」（天竜区熊 1976-1）

5 月、8 月、11 月が多忙。天気のよい土日にはソバが 500 杯売れる。舞茸蕎麦が人気。

物産館で道の駅同士のものとかを販売中。

左から、自家栽培の野菜、手作りこんにゃく、放し飼いの鶏の卵

龍山

○食材：らっきょう

○加工品：らっきょう漬け

ドラゴンママの店「よらんかね」で加工、販売。

砂浜のものよりも小ぶりだが、きめが細かくおいしいものができる。

○食材：ブルーベリー

○加工品：ジャム

茶栽培に代わる農産物として移行中。ブルーベリーは 6 月ごろから 11 月ごろまで、長く収獲できる。ジャムなどに加工。

○商品：パン「“お茶め”ろんパン」

若いスタッフの希望でパンづくりにも着手。オリジナル商品を開発。

○加工品：味噌、ハリハリ漬け（大根は地元だけは量が足りないため市内から仕入れている）、ピリ辛こんにゃく、五目煮豆、きゃらぶき、梅干、しょうが煮、夏みかんジャム、キウイジャム、など。一部商品は、天竜 JA 山の市で販売。

水窪

○食材：じゃがいも

小ぶりだが、味の濃いよいものができる。

○食材：鹿肉：猟友会の協力があれば、得ることができるが、数量が安定できない。

○グルメ企画：

市内の高級料亭・呉竹荘にて、2009 年 8 月に「天竜下り　産直まっしぐら！南進・北遠　天竜川を下って」という遠州・北遠自然食グルメという企画が実施された。

水窪の食材として、豆腐、こんにゃく、芋、鹿肉、山菜、味噌を提供。特にジャガイモはシェフが絶賛。それまで焼却処分にしていた鹿肉も好評だった。また、天竜川漁業協同組合産の無菌養殖鮎は、安全面だけでなく味の面でも顧客に大好評で、食材としてのポテンシャルの高さに、生産者である組合関係者も驚くほどであった。こういった食材は浜松市内でほとんど知られておらず、今後の事業展開の可能性が確認されたといえる。

○食べ処：つぶ食　いしもと（水窪町地頭方 38）

石本静子さんの自宅を改装したレストラン。アワ、ヒエ、キビなど雑穀を使った伝統料理を食べさせる店として好調。完全予約制。2000 円コースほか。

○食べ処：国盗り（水窪町奥領家 3281-8）

山菜やヤマメなど、野趣あふれるメニューを提供。栃もちが好評。

佐久間町山香

○加工品：お茶、シイタケ、きゃらぶき、梅しそ漬け、こんにゃく、しょうがなど

山香ふるさと村女性部が地元食材を使って加工、販売。
特にこんにゃくは自生しているものを使っている。

○加工品：金山寺味噌、ラッキョウ、栗蒸し羊羹など

ＪＡ遠州中央による直売所「天竜山の市」（2008 年 10 月オープン）に常設。町内イベントには必ず出店。市中心部の遠鉄の高架下で月２回開催される旬の味バザールにも出店。いずれも好評を博している。

山香の地味噌と梅しそ漬け

天竜区横川

○食べ処：道の駅いっぷく処横川

○食材：お茶、シイタケ

横川地区は、お茶とシイタケと林業が基幹産業。

最大の売り物は原木シイタケ。昔からやっていたこと。風土に適しているようで、以前から品評会などで上位に入る常連だった。香りがほかと違う。しかし、天候に影響されやすい。大きくするために１個ずつ袋がけするなど、それなりに手間をかけている。特に冬場はゆっくり育つので肉厚のものができる。シイタケを中心に多くの加工品をつくっている。

○加工品：いっぷく名物「たべまいか」
　緑茶やシイタケ、おからなど地元の食材を使った蒸しパン。

○食べ処：お食事処いっぷく茶屋
道の駅内にある食堂にてまぐろ寿司を販売中で好評。
焼津のまぐろの卸業をしている人の娘夫婦がやっているため。

春野

○食材：無農薬茶

　春野は茶栽培と鮎が有名。気田川は日本一きれいな川をめざしている。食べ処が他の地区と比較して多い地区である。

　特にマルセン砂川共同製茶組合による有機無農薬栽培面積は静岡一の広さで、日本一ともいえる。自園自製自販の加工施設を持っていることが、収益の基盤となっている。

　長田製茶と開発した商品である粉末茶が牽引役。JAS の有機認証を取得。

　かつて大きな収益をあげていたチンゲンサイは、各地で栽培されるようになり、価格が下がってしまった。

引佐

○食べ処：　てんてんゴーしぶ川（引佐町渋川 237-1）

○食材：シイタケ、いのしし肉など
　シイタケ料理を出したり、シイタケ狩を体験として実施。

○商品：五平餅、焼き卵（ゆで卵を醤油に漬けて目の前で焼く）、さつま（さつまいもを一晩塩水に漬けておいたものを素揚げする）。

　いずれもヒット商品。イベントで売り切れる。

　引佐町渋川はシイタケ栽培と茶栽培が基幹。
茶栽培は、製茶まで手がけるなど規模の大きいところ 2、３軒だけが残っている。委託加工も請け負っている。

増えるイノシシを活用

地元のものが買える店舗

地域の特産品が山間部と都市部の交流のきっかけとなっている。

山間部は、商品が売れることが励みになり、都市部は新鮮な農産物、安全な加工品が入手できることを歓迎している。

特に都市部で開催されるマーケットで手軽に買える機会が増えることが望ましい。いっぷく処横川のように、都市部のマーケットへは少量出品し、お客に横川まで足を運ばせるきっかけに活用するなど戦略的な商品展開も必要だろう。

①ＪＡ遠州中央による直売所「天竜山の市」
山間部と都市部をつなぐ要所である二俣にある直売所。日常的な利用が可能。
山香ふるさと村が出店。いっぷく処横川はアンテナショップとして位置づけ出店。

②旬の味・採れたてバザール
地域農産物や加工品の直売を目的に、平成 4 年から「地域農林水産物をＰＲする会」主催で開催。平成 20 年 10 月から遠鉄第一通り駅南（浜松郵便局西側）の高架下に会場を移して開催。毎月第 2 木曜日と第 4 日曜日の（1 月は 25 日のみ)、朝 9 時から午後 1 時まで開かれている。
山香ふるさと村、渋川てんてんゴーなどが出店し、好評を博している。

③「近江特鮮市場」
期間限定（2009 年 12 月 9 日～2010 年 1 月 11 日）で、浜松市中区千歳町の浜松モールプラザ「サゴー」地下 1 階に直送販売の店が開店。ＪＲ浜松駅近くのライブモール商店街が直営。新鮮な農畜産物、北遠地区の漬物などの加工品や遠州灘の海産物や加工品など５００種ほどを販売。

④ららぽーと磐田　遠州の駅
"地産地消"がコンセプト。農産物直売場やお魚市場、たまごをはじめ、B 級グルメやお惣菜など、様々な地元の恵みが一堂にそろう。

○水窪商店街＝街道の名残を残す町並み

水窪の中心街を南北に走る国道 152 号線は、南信州と太平洋を結ぶ「塩の道」であり、古くから信仰を集めていた秋葉神社への参詣ルート「秋葉街道」でもある。信州和田峠にしか出ない“黒曜石”の鏃（やじり）が遠州各地で見られることから、この道は縄文時代には既に開かれていたと推測されている。

水窪は街道の沿いの重要な宿場町として発展した。信州方面から青崩峠を通るルートは古くから「塩の道」として交通の要衝であり、戦国時代には遠州を攻める軍事ルートとして、武田信玄が 2 万 5 千の兵を進めた道としても知られている。江戸中期には「水久保」と呼ばれ、秋葉詣のルート上に位置するため信州・三河・遠州近郊から参詣客が集まった。そのころには、すでに数十軒の商店が並び、月 6 回も市が開かれる賑わいであった。

戦後～昭和 40 年代までは林業、ダム建設、佐久間ダムによる JR 飯田線の付け替え工事、製造業企業の誘致などで賑わい、商店街も一定の商業集積を見せたが、現在では産業の衰退、人口減少により、空き店舗が目立つ町並みとなっているが、宿場町としての歴史の蓄積やかつての賑わいの面影を残す町並みは、訪れる人に印象深い情景を提供している。

街道の面影を残す水窪商店街の町並み

「塩の道」ルートを案内するサイン

○熊、渋川集落＝街道筋の山村集落の景観

引佐町渋川や天竜区熊の集落は、いずれも秋葉街道の宿場町として栄えたという共通点がある。秋葉神社への参詣道であった秋葉街道は全国各地から参詣人を集めていたため複数のルートがあったが、この渋川、熊は蓬莱山から秋葉神社に至る主要ルー途上にあり、江戸期には一日数千人の道者（参詣の旅人）で賑わったといわれている。

渋川は、浜名湖に注ぐ都田川の源流に位置する約 1000 年の歴史がある集落で、秋葉街道等を通じて三遠南信の東西をつなぐ往来の主要ルート上に位置し、大平、川宇連などの集落は旅籠宿として、また林業の中心地としても栄え、明治 6 年には郡下で最も早く渋川小学校が創設されている。

熊も同様に、阿多古川に沿って何軒もの旅籠が並ぶ宿場町として栄えた歴史を持つ。大正から昭和にかけて、秋葉参りの客は減り、代わって林業が盛んになった。現在では林業も主要産業としての勢いは見られないが、愛知県と浜松市天竜とをつなぐルートの中継点として、道の駅「くんま水車の里」が新しい名所となっている。

いずれの集落も、風格のある農山村の景観と、かつての宿場町としての骨格を残した町並みを楽しむことができる。

熊集落、街道沿いの町並み

渋川のメインストリートの町並み

○Ｖ字谷の斜面上の山腹集落と茶畑

天竜川本流の中～上流域にあたる龍山地区から佐久間地区などでは、川の両岸が切り立った急傾斜地になっているいわゆるＶ字谷地形が多く見られるが、これらの地区に共通の特徴的な景観として、急斜面上に点在する高地集落と茶畑をあげることができる。

これらの高地集落は、他地区のように川の流域内に谷底平地や河岸段丘のような平坦地がほとんどないうえに、山腹が急傾斜地であるため日照も確保できず、農地として利用することができない。そのため、傾斜が緩くなるＶ字谷上のわずかな平坦地に茶畑や小規模の畑地を耕し暮らしている。

これら高地集落が成立した歴史的背景として、鎌倉時代や戦国時代にこの地に逃れた落人が、尾根筋からも川筋からも見えない山腹斜面に密かに住み着いたことが起源であるとする説もある。

いずれにしても、天竜川に寄り添って走る道路から見上げる傾斜地上に点在する集落と茶畑は、この地区独特のものであり大変印象深い景観である。

茶畑から見下ろす天竜川と国道

○春野町・気田川沿いの農村風景

気田川流域に広がる春野町領家から気田にかけての国道 362 号線に沿う地区は、急傾斜地とＶ字谷が連続する天竜川中～上流とは異なり、山稜が緩やかで、河川流域の両岸が広く、集落他や農地を確保することができる平坦地が広いことが特徴である。

この地形ゆえ、当該地区は調査対象地の中にあっても唯一といってよい開放的で明るい落ち着いた農村風景が広がっている。

気田川の流れは清冽で、川の深さや流れも緩やかなため広い川原も多く存在し、カヌーなどのアウトドアスポーツのフィールドとして、またファミリーキャンプの拠点として、春～秋のシーズンは多くの訪問客で賑わう。そのため、ロードサイドの商店やガソリンスタンドなども多く、食事を提供する店舗なども他地区に比べると多い。

一方、春野地区でも「奥」と呼ばれる杉・川上にかけては、気田川支流の杉川に沿って同じ国道 362 号線が走るが、幅員も狭く開放感の少ない山村風景となる。この道は、川根本町へと抜けるが、交通量も少ない。

春野地区の基幹集落である領家から気田にかけては、天竜区の中でもここにしかない、開放的な農村と緩やかに流れる気田川の清流といった、魅力的な景観が広がる地区である。

国道に沿う気田川の流れと川原の広場

気田川流域の平坦地に広がる農村集落と
茶畑の景観

② 歴史資源（城跡）、町並み景観

天竜の地は、戦国時代にはたびたび軍事戦略上の重要地として、今川家、徳川家、武田家が兵を動かし、まさに「国盗り合戦」を演じた舞台ともなった。

対象地の各地区には、現在にそれを伝える多くの城跡等が残されており、往時を偲ぶ歴史・文化史跡として、訪れる人も多い。

特に水窪の高根城（MAP 番号⑩）は当時のとりでが時代考証の上復元されており、観光スポットとしても人気が高い。その他には、天竜地区の二俣城跡（同①）や鳥羽山城跡（同②）、春野地区の光明城跡（同③）や犬居城跡（同⑥）などの地形や遺構が多く残されており、往時の面影を偲ぶことができる。

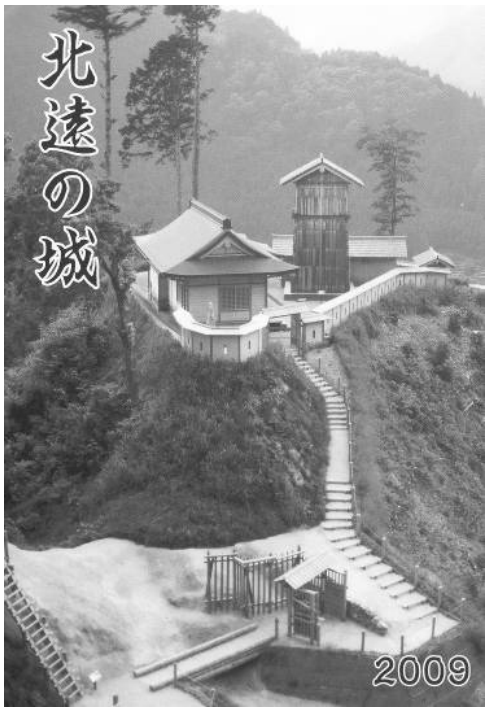
たとえば高根城は地元領主奥山家が築き、奥山家が武田軍の参加に入った後は、武田軍の最南端の国境警備の前線基地として重要な軍事的機能を担う城として、当時最高の築城技術をこらして整備された。

その後、高根城は勢力を伸張した徳川家康による、遠州からの武田家追い出しによりその役割を終えるが、北遠における武田軍の築城技術を学び、徳川家の築城技術は大きく技術的に進化したといわれている。

このことひとつとっても、城跡は多くのことを学ぶことができる大きな地域資源であることがわかる。なお、浜松市生活文化部生涯学習課により、小冊子『北遠の城』が出版されている。

番号	名称
1	鳥羽山城跡
2	二俣城跡
3	光明城跡
4	渋川城跡
5	堀之内の城山跡
6	犬居城跡
7	中尾生城跡
8	鶴ヶ城跡
9	大洞若子城跡
10	高根城跡

『北遠の城』（浜松市生活文化部生涯学習課、2008 年発刊）より



二俣城とつけ城群の位置図

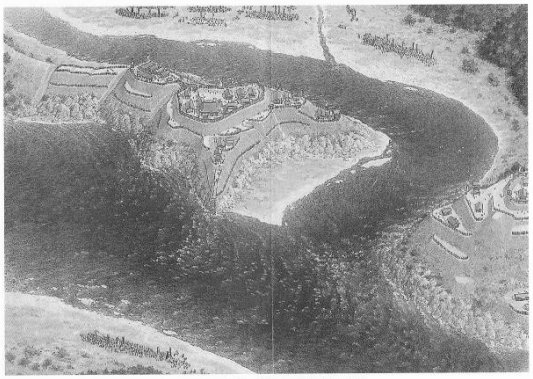
パンフレット「天龍の旅」に加筆

二俣城アクセス
・天竜浜名湖線天竜二俣駅から徒歩約 25 分
・車では、城跡入り口駐車場有（5 台可・WC）

鳥羽山城アクセス
・天竜浜名湖線二俣本町駅から徒歩約 10 分
・車では、城跡前駐車場有・WC

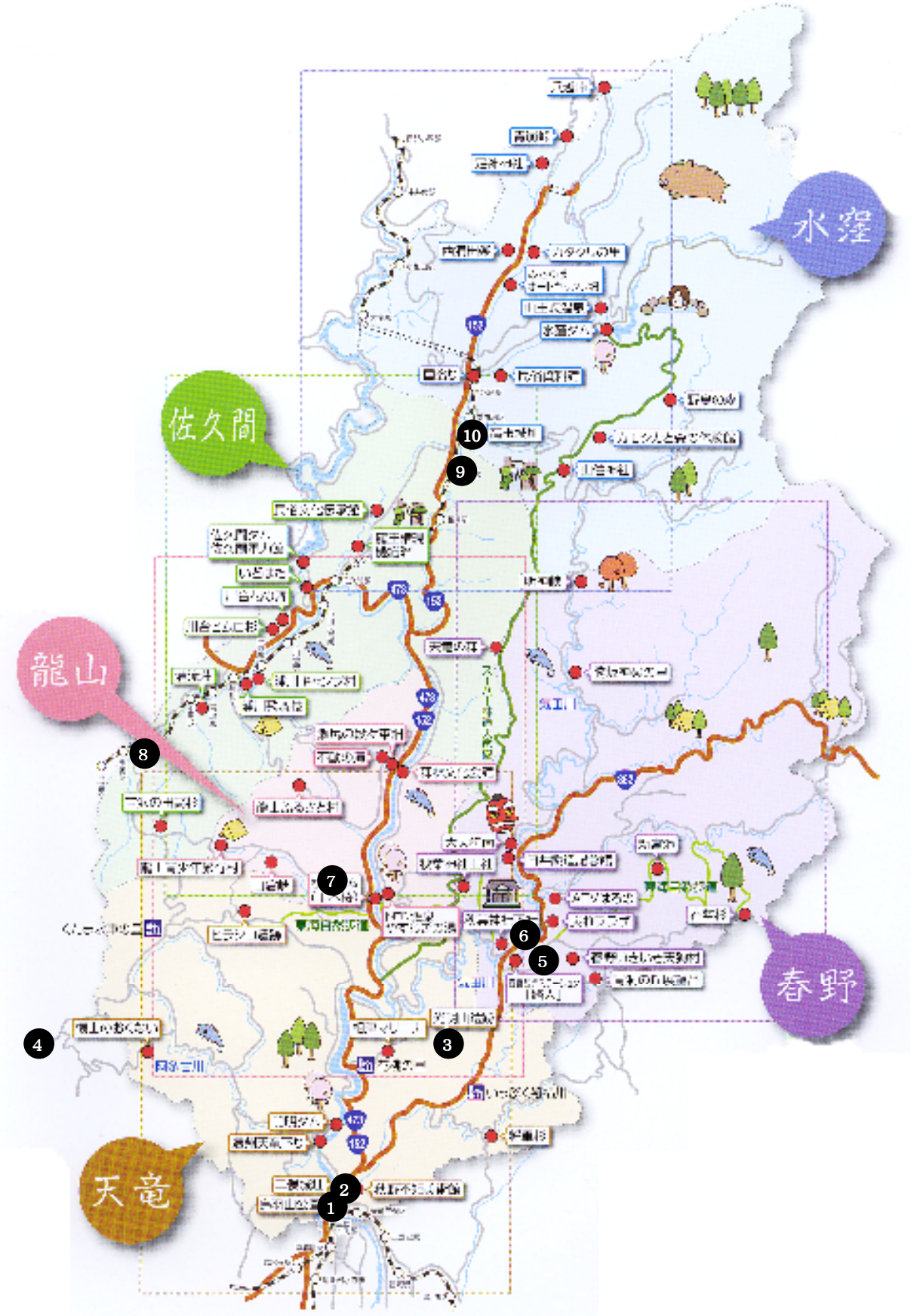
年代	勢力	日本史上のできごと	二俣城・鳥羽山城関連記事
1560	今川	桶狭間の戦い	—この頃、二俣城の要塞化がはじまる—
	徳川		徳川家康、二俣城領有
1570	武田	三方原の戦い	武田信玄、二俣城占領　遠江に侵攻
	武田	長篠の戦い	徳川家康、二俣城の四方に砦を築き武田方より奪回（二俣城攻めの際、鳥羽山城に本陣がおかれる）家康長男信康、二俣城において自刃
1580	徳川	本能寺の変 小牧・長久手の戦い	
1590	豊臣	小田原の陣（豊臣秀吉の全国統一） 文禄の役	家康の関東移封、堀尾吉晴、浜松 12 万石の城主となる（堀尾吉晴の弟、堀尾氏光（宗光）、二俣城入城） —この頃、鳥羽山城の石垣が整備される—
	豊臣	慶長の役	
1600	廃城	関ヶ原の戦い	堀尾氏、出雲へ移封、二俣城・鳥羽山城廃城

二俣城・鳥羽山城関連年表



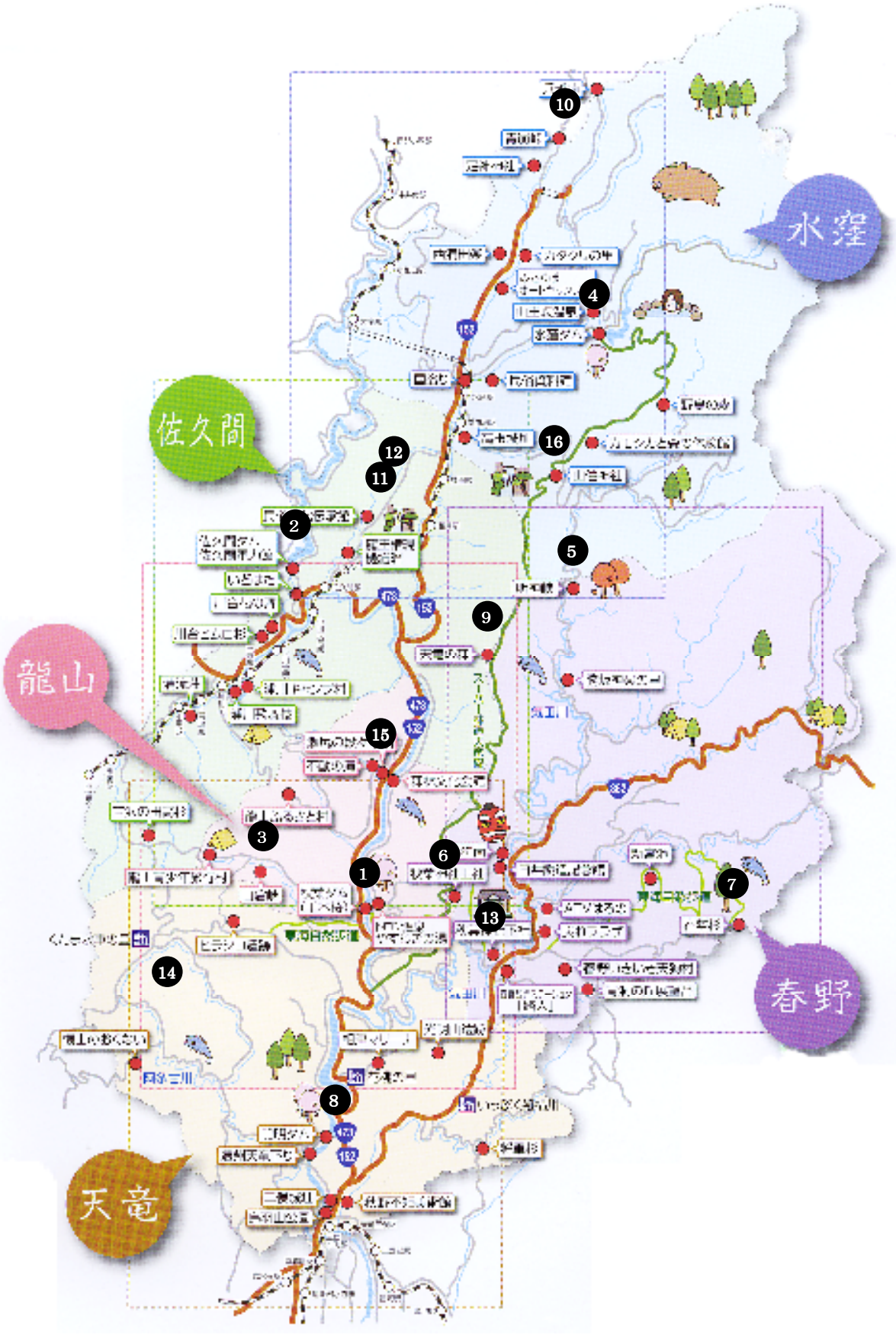
二俣城鳥瞰図（推定復元）　学習研究社『戦国の堅城』より
元亀３年１０月の武田信玄遠江侵攻のおり、２月間近く籠城し徹底抗戦した二俣城のようす。

【城跡・歴史的町並み　マップ】



③　自然・景観資源

対象地は、豊かな自然に恵まれ、自然に関する地域資源の宝庫であるといえる。
山稜や渓谷、峠道や植物など地形・自然物に加え、ダム湖や社寺、農村風景など、人為的な力が加わりながらも調和を保つ魅力的な景観などが地区ごとの特徴を持ちながら展開している。

番号	名称
1	秋葉ダム湖と千本桜
2	佐久間ダム湖と周辺の緑
3	白倉峡
4	水窪ダム湖と周辺の緑
5	明神峡
6	秋葉山
7	春埜杉
8	船明の日本杉
9	竜頭山
10	青崩峠
11	日本杉峠から望む中央構造線
12	ホウジ峠の中央構造線
13	秋葉山秋葉神社の社叢
14	大栗安の棚田
15	瀬尻の段々茶畑
16	山住神社のスギ

【自然・景観資源マップ】